

戦争体験を語る

—本土決戦準備と郷土の戦争遺跡—

今年で22回目を迎えた「平和を求めて」図書館資料展、その記念行事として、「戦争体験を語る—本土決戦準備と郷土の戦争遺跡—」座談会が開催されました。138人の方にご参加いただきました。座談会の様子をご紹介します。

と き 平成25年7月27日(土) 午後1時30分～3時30分
と ころ 中央図書館 3階 集会室



150席の会場にいっぱいの参加者を迎え、座談会が始まりました。

まずはじめは、南部中学校1年生4名の発表でした。福岡小学校6年生時の戦争の学習から、学んだことやそこから感じたこと、そして平和への思いを発表しました。



解説をする広中一成さん

今年も、司会を三重大学非常勤講師の広中一成さんをお願いしました。広中さんより、太平洋戦争や沖縄戦の概要を地図を用いて説明をしていただきました。

続いて、戦争遺跡の研究者である、名古屋市見晴台考古資料館学芸員の伊藤厚史さんより本土決戦に備えた渥美半島・豊橋市内の陣地について、具体的に紹介をしていただきました。

市内在住で漫画家の野口志行さんは、郷土を防衛する旧「怒」部隊の小隊長として、湖西市で陣地構築をしていた時のことを、スケッチをもとに話されました。

旧伊良湖国民学校の教員をされていた志満津啓司さんは、学校での授業や旧「怒」部隊訓練の様子などを紹介されました。



出演者の方々

(右より広中さん、野口さん、志満津さん、伊藤さん)

参加された方々は、最後まで出演者のお話を熱心に聴いていらっしゃいました。

ご協力いただいたアンケートから、「身近に本土決戦のための陣地があったことを知っておどろいた」、「ぜひ、陣地跡を廻ってみたい」などのご感想をいただきました。